

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘		
所在地	小樽市長橋2丁目22番4号 (電話) 0134-24-2006		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】 (20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人 非常勤 1人 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 25,000円 暖房費(11~3月) 7,000円
敷金	有 (35,000 円) ・ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院 朝里病院 おきつ歯科 野口整形外科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眺望に優れた高台にあり、雄大な海を眺めながら、温かな雰囲気のなかで落ち着いた生活ができるホームである。庭も広く居室や共用部分は清潔でゆとりがあり、利用者のペースで安心した暮らしをしている。職員同士の間関係も良好であるため、利用者との関係も家族のような温かみを感じられる。ホームの車両で買物に行くなど、利用者本位のサービス提供を実践した取り組みがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議は、毎回町内会役員や家族の出席で開催が定着している。プライバシーの確保は個人情報使用同意書を作成し、家族の了解済である。防災訓練では消防署立会いによる災害訓練で、夜間想定をした避難訓練を実施済である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が個別に自己評価を記入し、各ユニットの管理者がまとめたものを再度検討しホーム長が作成し完成させている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>隔月毎に運営推進会議を開催し、ホームの行事予定や行事への参加の呼びかけ、災害時の協力要請など活発に意見交換をしている。会議の内容は報告書として保存されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月のホームだより、金銭出納報告のほか、利用者一人ひとりについて担当者が近況報告を記載し郵送している。運営推進会議に家族に参加していただき、意見や要望をいただいております。出された意見や要望には迅速に対応している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に参加し、廃品回収など地域のお手伝いに参加している。ホームの夏祭りにも地域住民の方々の参加があり、ホームの災害時は町内会の協力がいただけるようになっている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を、新たにホームの理念に加えて作成され、ホーム内に掲示されている。増刷するパンフレットにも新たな理念を記載する準備を進めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、職員全員の共有として日々振り返り、確認をしながらケアサービスを実践するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、盆踊りや散歩中の挨拶で交流をしている。ホームの行事案内を近隣のスーパーや回覧板で周知を図っている。引き続き地域との連携を深める取り組みを計画中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、職員全員が話し合いながら作成し、これを各ユニットの管理者がまとめている。評価後は改善箇所を全員で検討し、改善に向け具体的な対策に取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎の運営推進会議には、町内会役員や家族も出席し、ホームからの説明や報告に毎回活発な意見をいただき、日々のケアサービスに反映させるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者会議へ出席しているが、市担当者と積極的に連絡を取るまでには至っていない。	○	市との関係があまり見られないため、市の担当者にホームの実情や取り組みを伝えたり、相談できる関係の構築を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りと金銭出納内容と利用者一人ひとりの近況報告を郵送している。家族の来訪時や電話連絡でも利用者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との話し合いやホームからのアンケートで家族から意見や要望があった場合は、検討しケアサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが異動のある場合は利用者に不安を与えないようほかの職員がカバーしており、新規職員は利用者になじめやすく努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順次外部の研修に参加し、受講内容をほかの職員と共有している。消防署による救命救急研修も殆どの職員が受講済みである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の管理者会議に出席しているが、近隣のグループホームとの交流までは至っていない。運営法人内のグループホームに限らず地域のほかの業者との積極的な連携が望まれる。	○	地域のグループホームと積極的に交流を持ち相互訪問や合同実習、勉強会、行事を通してケアサービスの向上につなげていくことを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者とは利用開始前にホームから出向いて、顔馴染みの関係になっていただき、不安を少なくしホームでの利用を開始するようにしている。入院中の場合でも可能であればホームに来院していただき、雰囲気や環境に馴染めるよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬うことを念頭に置いて、日々のケアに専念しながら過ごすよう努めている。利用者からは昔からの知恵や裁縫、編み物、調理方法などを教えていただくことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの情報を収集し、把握が困難な時は利用者の些細な動きや表情の変化、声のトーンで何を望んでいるかを判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者と家族の意見を取り入れたものをサービス担当者会議で検討し、作成している。作成された介護計画は職員全員で共有されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月毎のモニタリングを参考に6ヵ月毎の作成を実施している。利用者に変化が見られる場合は、相談のうえ、その都度計画の見直しを行なっている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車両で、従前からのかかりつけ医への送迎や利用者一人ひとりの買物などに柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による毎週の往診、隔週での整形外科医の往診のほか、皮膚科や歯科へもホームの車両で受診に出かけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	既にホームでは、医師との連携の下に職員が団結し看取りを経験済みであり、今後も対応する準備が出来ている。家族には入居時に利用者のターミナルケアまでを説明し、終末期の指針を作成し同意をいただいている。重度化への対応は職員全員の共有となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は人目に付かないよう保管されており、言葉かけにおいても日々のケアでプライバシーに配慮した対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望に合わせ、自分のペースで暮らせるような支援を行なっている。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じテーブルで介助しながら一緒に食事をしており、共同して配膳や後片付けも行なっている。誕生日には事前に食べたいものを聞き、希望に添った食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、午前と午後の時間帯に平均週2回程度入浴している。入浴を拒む利用者には何度か様子を見ながら、声を掛けて少なくとも週1回は入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事準備や掃除、自家菜園の収穫など多様な楽しみを持っている。利用者の楽しみにしている句会への送迎や、外食に対応することもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム前の芝生や近くの喫茶店、公園に行くことを楽しみにしており、職員も利用者の希望を聞き、外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は自動ドアになっており、上下階のユニットにも鍵はなく、自由に行き来が出来るようになっている。玄関の施錠は夜間だけである。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いで災害訓練があり、直近では夜間を想定した避難訓練が行なわれた。災害時には町内会の協力をいただけるよう話し合いが行なわれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分や食事の摂取量は個人別に記録されており、食事の内容はバランスのとれたメニューになっている。利用者の状態に応じた調理法や、嫌いなもの場合は代替食の用意もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は十分に広く、使いやすい作りになっている。居間の大きな窓から海が見渡せ、季節の花や飾り物、カレンダーなどが見やすく配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は家族の写真や趣味の品物、長年愛着のある調度品を自由に持ち込み、ゆったりと暮らしている。仏壇を置いている利用者の中には、月命日に必ずお坊さん呼んで、お経を唱えていただく利用者もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。